

アジア LNG 市場を巡る LNG サプライヤーとの意見交換

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

4月10～11日、シンガポールにおいて、LNG供給者などの市場関係者や専門家等と、アジア LNG 市場の展望について、意見交換を行う機会を得た。様々な角度から議論が行われたが、筆者の見るところ、議論の中心は、①アジア LNG の需要拡大のペースに影響を与える諸要因の動きをどう見るか、②供給過剰状況にある世界の LNG 市場の潮目が変わるのはいつか、③足下の市場環境の下で、LNG 供給者に求められる戦略は何か、の3点であった。

アジアでは、全体として着実な LNG 需要の増加が続いている。最大の消費・輸入国である日本の需要は、2017年はほぼ横ばいであったが、それ以外では、新興国・途上国を中心に、着実な増加が見られている。特に、市場関係者が一様に最大の関心を示したのが、昨年、5割近い増加で一気に韓国を抜いて、世界第2位の LNG 輸入国になった中国での需要拡大である。また、長期的な成長市場としてのインド、ASEAN 諸国などへの期待も高く、サプライヤーにとっては、アジア LNG 市場の拡大は最大の関心事項である。

今回の意見交換では、何がアジア LNG 需要拡大の速度・度合いを左右するドライバーなのか、そのドライバーの現状と将来をどう見るか、について活発な議論が行われた。トピックとして取り上げられたのは、最も基本的な要因としての、世界経済とアジアの経済成長見通しを始め、アジア各国がどの程度、環境問題への対応を強化するか、という点であった。後者については、気候変動対策の重要さもさることながら、中国・インドなど、国によっては「喫緊の対策」となっている大気汚染問題への対応策が LNG 需要にどれだけ影響するか、という強い問題意識を持った議論が行われた。

また、次に取り上げられたのは、LNG 価格の問題である。アジアの LNG 需要が、とりわけ新興国や新たな市場で拡大してきた背景には、2015年以降の価格低下が影響している、との見方である。換言すれば、現在の市場価格であればそれなりの成長が続くが、何らかの理由で価格が大きく上昇すれば、特に低所得国での需要成長が損なわれる・阻害されるのではないかと、との懸念をサプライヤー側も持っているようである。

また、価格の問題とも密接に関係するが、LNG にとっての強力な競合相手となる、石炭、原子力、再生可能エネルギー、LPG、石油製品などの市場動向をアジア各国毎にどう見るのか、という点も大きな関心事項であった。LNG にとってみれば、同じガスでもパイプラインガスとの競合があり、さらに需要確保を巡っては、同じ LNG 同士で、プロジェクト間の競合もある。競争に関しては、日本を中心とした電力・ガス市場の自由化が LNG 需要にもたらす影響についても、市場関係者の注目の的となっている。これは、需要の絶対水準に影響するだけでなく、柔軟性や契約期間など、需要の性質に多大な影響を及ぼすからである。

第2のポイントとしての、市場の需給構造変化の「潮目」に関わる問題については、当然のことながら、第1のポイントで言及した、今後のアジア市場でのLNG需要拡大の度合いをどう見るか、が極めて重要な考慮点となる。現時点までの「主流派」の見方では、アジアではLNG需要が着実に増大し続けるが、2014年まで続いたLNG高価格期に最終投資決定が行われた多数のLNGプロジェクトが陸続と立ち上がり続けるため、供給過剰状況が生まれ、それは2023年頃までは（場合によってはもう少し長く）続くのではないかと考えられている。しかし、高価格期に最終投資決定が進んだことの裏返しで、ここまで続く需給緩和・低価格期において、次の新たな、（特にいわゆる「グリーンフィールド」の）供給プロジェクトの最終投資決定が、ごく一部例外を除いて、行われにくい状況が続いている。その状況下、LNG需要拡大が続けば、供給過剰から供給不足へと振り子の針が一気に逆に振れる可能性も指摘されている。その意味で、どのタイミングで潮目が変わるのか、はアジアLNG市場に関わるステークホルダーにとって、極めて重要な問題である。

今回の議論では、一つの象徴として、昨年冬季に中国でのLNG需要が急激に拡大したことで需給が引き締まり、LNGのスポット価格が100万BTU当り10ドルを大きく上回るまで上昇したことを注目する意見が展開された。もちろん、この現象はある意味では「一過性・季節性」のものであり、冬季におけるガス需要の増大が一服し、中国によるLNG調達が落ち着きを見せたことから、LNGスポット価格も下落、3月時点では8ドル台まで低下している。その点、未だ現時点では全体として供給は潤沢に、十分すぎるほどある、と行って過言ではない。しかし、中国やその他新興国でのLNG需要が予想以上のスピードで拡大すれば、これまでの想定よりかなり早いタイミングで供給過剰が市場から消える可能性を見込む意見が出てきている。「潮目」の変化をどう読むか、はLNG市場における売手と買手の交渉を大きく左右する要因となるだけに、今後の市場分析は極めて重要である。

しかし、他方で、少なくとも当面は供給過剰・買手市場の状況が続くことも市場の実態である。また、中長期的に需給構造がどう変わろうとも、LNGが他の競合エネルギーと競争を続け、そしてパイプラインガスとも競い、さらにはLNGプロジェクト間でも販路・市場を巡って競り合う状況は持続する。その意味で、第3のポイント、すなわちLNG供給者に求められる戦略、に関する議論も熱心なものとなった。

ここでは、如何に供給コストを引き下げられるか、そのための戦略とその実現に最大限注力することの重要性が様々な事例をもって指摘された。当然のことであるが、コスト競争力で優位に立つ供給者は、供給過剰の市場でもサバイバルが可能であり、供給不足の市場で最大の利益を期待することができる。従って、ボトムラインとして、資本費も、操業・運営に関わる費用も、様々な工夫を通して最小化を図ることが最重要の基本要因となる。

もう一つは、アジアLNG市場の多様性や需要サイドの様々なニーズとその変化を正確に理解し、それに適切にアプローチすることの重要性が指摘された。アジア各国では、LNGがエネルギーミックスの中で置かれているポジションも異なり、エネルギー間の競合や市場改革の状況も多様である。また、買手もまさに多様なプレイヤーが存在するようになっており、そのLNG調達におけるニーズ・プライオリティなども決して一様ではない。需要サイドの特徴・ニーズとその将来における変化を正確に読むことが、拡大するアジアLNG市場で成功を収めるために重要な役割を果たす戦略となろう。

以上